

HO YOG

教区新報



兵庫教区教務所
ホームページ



兵庫教区教務所
facebook

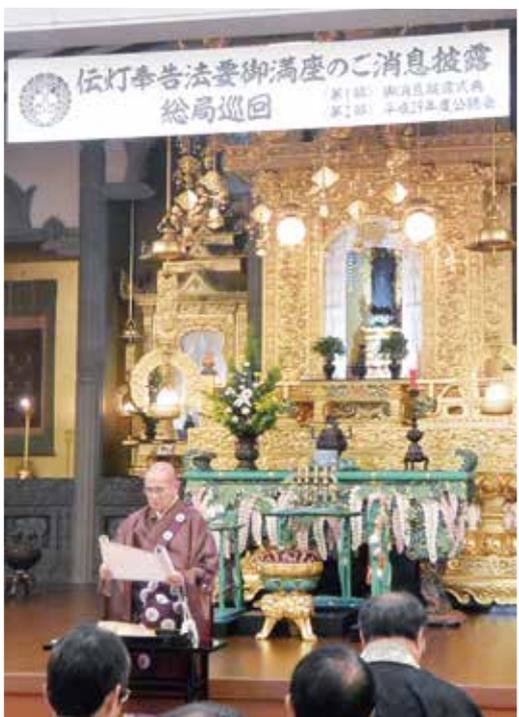
浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号 (本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949 (代)
[編集] 兵庫教区広報部

2017.11 200号

「伝灯奉告法要御満座の消息」披露

～石上智康総長出向のもと総局巡回～

九月六日(水)午後一 二十九年年度公聴会が開催
時より、神戸別院本堂に された。
て第二十五代専如ご門主 された。
より発布された「伝灯奉 教区内の僧侶及び門信
告法要御満座の消息」披 徒およそ九十名が参集し、
露の総局巡回と併せ平成 本山からは、総局より石
上智康総長・特命布教講



石上総長よりご消息披露

師として大分教区速見組 第二部の公聴会では、
正善寺の藤井邦麿講師・ 最初に満井副所長のご親
事務局より小椋智之統合 教「念仏者の生き方」に
企画室次長・満井秀城浄 学ぶと題した講義、続いて
土真宗本願寺派総合研究 滝口部長から平成二十
所副所長・滝口隆誠僧侶 八年十月一日より本年五
養成部長・田坂優子所務 月三十一日まで十期八十
部賛事が出向された。 日間勤まった伝灯奉告法
第一部は式典として、 要についての報告、満井
勤行の後、ご消息披露と 副所長から平和に関する
石上総長からの趣旨演達 論点整理をテーマとした
が行われ、最後に藤井講 公聴会の意見集約につい
師の特命布教が行われた。 ての報告が行われた。

報告が終了し協議会では、滝口部長から最初に災害対策金庫の新たな資源の確保について寺院に対する賦課金依頼額の算出・設定案の説明が行われ、次に「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)総合基本計画・重点プロジェクト改定について、重点プロジェクトの推進期間(現行三年)を教区における役職者の任期と整合性をつけていくこと、次期「重点プロジェクト」は『念仏者の生き方』を体した宗門全体の「実践目標」を定め取り組む等の改定案の説明が行われた。

最後に十年、二十年後の日本社会で求められる僧侶像・寺院像についての説明が行われ、参加者からも多くの意見・提言が出され三時間近くの総局巡回が終了した。



しばらく前に、某所でインターネット上の差別について話す機会がありました。その話をすると当たって、ネット上の差別に関連するものを調べたのですが、気持ちが悪くなるぐらいに、憎悪にまみれたものでした。特に近隣アジアに対するものが多く見られ、同時にマスコミ、特に特定の新聞へのパッシングが多く見られました◆所謂ヘイトスピーチ対策法が施行されて一年以上経つのですが、あからさまな言葉は消え、より陰湿化しているように感じます◆「海の内外のへだてなく／み仏の徳のとうとさを／わがはらからに伝えつつ／浄土の旅をともしにせん」とは大正十二年制定の真宗宗歌の三番です◆もう九十年以上「海の内外のへだてなく」と歌い継いできた私たちの歴史の意義を改めて問い、大切に次世代に伝えなければならぬ今でしょう。

神姫組光輪寺 棚原正智

任期調整の説明図

(現 行)				(改 定 案)			
年度	重点プロジェクト 推進期間 (現行)	教区会議員 ・組長 (任期)	実践委員 (任期) (最大2期まで再任可能)	年度	重点プロジェクト 推進期間 (案)	教区会議員 ・組長 (任期)	実践委員 (任期) (最大2期まで再任可能)
2015				2015			
2016	3年間	4年間	2年間	2016	3年間	4年間	2年間
2017			2年間	2017			2年間
2018			2年間	2018			2年間
2019	3年間	4年間	2年間	2019	2年間	4年間	2年間
2020			2年間	2020			2年間
2021			2年間	2021			2年間
2022	3年間	4年間	2年間	2022	4年間	4年間	2年間
2023			2年間	2023			2年間
2024			2年間	2024			2年間
2025	3年間	4年間	2年間	2025	4年間	4年間	2年間
2026			2年間	2026			2年間
2027			2年間	2027			2年間

※2020年度より推進期間と任期が一致

実践委員任期調整について
(事前のお知らせ)

重点プロジェクトの推進期間(現行二年)について、教区役職者の任期(教区会議員四年、組長四年、教区委員会二年)との整合性をつけるため、次期推進期間を従来の三年間から二年間とし、その後四年間とする改定案が宗派より提示された。今年度中に正式に次期推進期間が提示される。(詳細は左図参照)



「愛語」の実践

この原稿を書いている最中、いよいよ国政選挙の公示日を迎えようとしている。大義なき解散と言われる中で、これから各党の党首、候補者たちの激しい舌戦が繰り広げられることになろう。その際、党是を論ずるよりはむしろ、如何に相手の非と思われるところをあげつらい、罵詈雑言を浴びせるかに熱が入る口調には、毎度のことながらウンザリしてしまう。

この有様では、とても明るい未来、心豊かな社会の創造を託する気持ちにはなれない。相手を中心とする言葉は、とうてい周りには響かず、結局のところ自分自身をおとしめることになるのだろう。

それでもその後ひとりになると、「なんであんな事を言ってしまったのだろう」と後悔の念が湧いてくる(とは、本人の弁)。私も同居の母とよく口論になることがある。そのきつかけは、ホントに口に出すのも恥ずかしい些細なことである。それでも最後は、声の大きい方の勝ちとばかり、私が怒鳴り声をあげて終了。しかしその後はやはり後悔しきりで、「ああ、また年寄りに言うたらイカシことを言うてしまう」と、自己嫌悪に陥るのが毎度のことである。

積尊はまた、次のようにおっしゃる。「自分を苦しめず、また他人を害しないことばのみを語れ。これこそ実に善く説かれたことばなのである」(スッタニパータ451)と。他人を誇り傷つけ、自分が後味が悪くなるような言葉は、心して言わないようにと、積尊はお諭しくださるのだ。真実に「ことば」はその使い方が大切なのである。言葉一つで、他人の心を悲しませたり癒したり、自らも傷つき泣いたり笑ったり。

「ひとつのことば」(作者未詳)という詩がある。ひとつのことばでけんかして／ひとつのことばでなかなおり／ひとつのことばで頭が下がり／ひとつのことばで心が痛む／ひとつのことばで楽しく笑い／ひとつのことばで泣かされる／ひとつのことばはそれぞれに／ひとつの心を持つている／きれいなことばはきれいな心／やさしいことばはやさしい心／ひとつのことばを大切に／ひとつのことばを美しく

この「ひとつのことばを美しく」とは、仏教でいうところの「愛語」の実践ということであろう。「あなたがいるから、私がある」と気づかされ、相手を思う心から自ずと出る慈愛に満ちた言葉で、優しく語りかけることができれば、人生はかならず自他ともに心豊かなものになるはずである。

月参りにスクーターで街中を走っていると、ときどき二、三人が集まって立ち話をしている光景に出会うことがある。小一時間ほどして、ふたたびその場所を通ると、まだおしゃべりが続いている。「よくあれだけしゃべることがあるものだな」と、あきれながら通り過ぎる。聞くと、たいていが他人の噂話で、およそ褒める話はず、やがては悪口、陰口へと展開していく。

積尊はまた、次のようにおっしゃる。「自分を苦しめず、また他人を害しないことばのみを語れ。これこそ実に善く説かれたことばなのである」(スッタニパータ451)と。他人を誇り傷つけ、自分が後味が悪くなるような言葉は、心して言わないようにと、積尊はお諭しくださるのだ。真実に「ことば」はその使い方が大切なのである。言葉一つで、他人の心を悲しませたり癒したり、自らも傷つき泣いたり笑ったり。

「ひとつのことば」(作者未詳)という詩がある。ひとつのことばでけんかして／ひとつのことばでなかなおり／ひとつのことばで頭が下がり／ひとつのことばで心が痛む／ひとつのことばで楽しく笑い／ひとつのことばで泣かされる／ひとつのことばはそれぞれに／ひとつの心を持つている／きれいなことばはきれいな心／やさしいことばはやさしい心／ひとつのことばを大切に／ひとつのことばを美しく

この「ひとつのことばを美しく」とは、仏教でいうところの「愛語」の実践ということであろう。「あなたがいるから、私がある」と気づかされ、相手を思う心から自ずと出る慈愛に満ちた言葉で、優しく語りかけることができれば、人生はかならず自他ともに心豊かなものになるはずである。

掛龍西組西法寺住職 岩谷 教授

いつも綺麗なお花でお荘厳 〜仏華研修会開催〜

本年度より、教区寺院婦人会連盟では仏華研修会を開催している。

講師は弓場洋子師（奈良教区三山組東林寺）。年四回「仏華の基本的な立て方」「法要時の立て方」「まとの講義」とテーマを設けて行われ、毎回定員一杯の参加がある。

弓場先生は「仏教が日本に伝来した頃、我々のご先祖様は敬虔な信仰心から、神様仏様に草花を捧げる行為を生みました。日常生活にとけこんだ供華は発展し



メモを取りながら真剣に

生け花として親しまれていきます。生け花のこころ

は「いのちをみつめるいのちを生かす」です。お荘嚴のなかで阿弥陀様の大慈悲心を表すといわれる仏華を一緒に学びましょう。」と述べた。

研修はまず込藁作りから始まり、仏華の成立ち、基本的な役枝（真・副・請・控・流枝・正真・胴・前置・見越）、花材・禁花、給仕



個性が光る仏華

の心構え等の説明を受け、よいよ実践。其々メモをびっしりノートに取ったり、ビデオカメラで録画したりと、一言一句聞き逃さないよう真剣に取り組んだ。

また、講師より一人ひとり丁寧に手ほどきを受け、アットホームな雰囲気の中、研修の最後には各自個性を活かした立派な仏華が立てられた。

参加者の野口あゆみさん（阪神南組法輪寺）は「真、流枝、請など一つひとつに名前が付いていて驚いた。知らないことを沢山教えていただいたとても勉強になった」と話した。

次回は十二月十二日（火）午後二時から「まとの講義」と題して別院にて開催される。

会費五千円（花材代は実費・花瓶、花切鋏ご持参下さい）問合せは教務所担当まで。

まことの保育 〜大谷派と合同研修〜

十月二十一日「伝えようまことの保育 育てよう仏の子ども」のテーマのもと「兵庫教区保育連盟第二回まことの保育連続研修会」が開催された。

この度は、大谷保育協会山陽支部との交流も兼ね、大谷派山陽教区同朋会館（姫路市）をお借りし、約六十名の参加のもと研修を行った。

保育連盟には、四つの

「おやくそく」という誓いがあり、その中の三番目に「わたくしたちはお話しをよくききます」という項目があります。そこで、本研修では、園児にお話しをよく聞いてもらえる様、先生のスキルアップを目的とし、井上修子氏（元神戸市立小学校教諭）講師のもと、『はずむ』ことば

「広がる心豊かな遊びと



ご本尊の前での研修

山口教区会員と 〜仏青一泊旅行〜

十月十四日から十五日、教区仏教青年連盟の研修旅行で会員四名が山口県を訪れた。

初日は本願寺山口別院を参拝。木下祐祥輪番挨拶の後、職員より沿革の説明を受けた。皆初めて訪れる別院の説明に、熱心に耳を傾けていた。

翌日は、瑠璃光寺（国宝）や日本最大級の鍾乳洞・秋芳洞、絶景が見どころの角島を訪れた。



全員でパシャリ

夕方からは、山口教区の仏青会員との交流会が開かれ、最初は緊張していた会員も時間が経つにつれて徐々に打ち解け、互いの教区の情報交換を行うなど、有意義な交流会

参加者には「他教区の会員と触れ合うことが出来て、とても良かった」と話す会員も。教区仏青では今後様々な活動を計画しています。仏青に興味のある方は教務所までご連絡ください。

第23回 震災支援『報恩講子どもの集い』開催

日時：平成29年12月23日(土) 10:00～受付・集合

会場：本願寺神戸別院(通称:モダン寺)

定員：300人(定員に達し次第、締め切ります)

参加費：子ども 300円(昼食・行事保険料込み)
高校生以上 600円(昼食・行事保険料込み)

申込み：12月9日(土)までに参加費を添えてお申し込みください。

講師：親の部/山西昭義さん(神戸湊組光明時)

●お問合せ：兵庫教区教務所内 少年連盟事務局
☎078・341・5949/FAX 078・341・8526



十月十六日、社会福祉法人「ふじの里」の秋まつりに、北摂組のビハークラ活動の一環として、仏婦・寺族・住職等、総勢二十名で参加をしました。当日は二班に分かれ、たこ焼きを二千五百個焼きあげました。参加者の一言の中に「忙しかったけれど楽しかった。来年も参加したい」、「この一言に「ホッ」。

普段は、毎月第三水曜日の午後二時～四時まで、三～四名で、入所の皆様との面接活動(話し合い手)を行っています。今後、身近で誰にでもできるこの活動が拡がり、根付くことを期待し継続してまいります。

(北摂組正光寺 高崎長英)

ビハークラ活動の現場から



入所者と一緒に

浄土真宗本願寺派 兵庫教区

自死者追悼法要

— みほとけに ^{いだ}抱かれて —

2018(平成30)年2月24日(土)

午後1時30分より

本願寺神戸別院 3階 本堂にて
(モダン寺)

- 浄土真宗による法要をお勧めしますが、参列される方の宗教は問いません
- 大切な人を自死で亡くされた方に限らせていただきます
- 参加費無料です
- できるだけ事前にお申込みをお願いします
- 当日の参加もお待ちしております
- マスコミの取材はお断りしてあります

◆お問合せ・申込み先

郵便 〒650-0011 兵庫県神戸市中央区下山手通8-1-1
兵庫教区教務所・本願寺神戸別院 追悼法要担当
電話 078-341-5949 FAX 078-341-8526
メール hyogo@modan-t.or.jp

いろいろな資材のことなら、水野広告社へ。

ペーパーバッグ・パッケージ・包装紙・リボン・食品容器
POP・広告・カード・シール・カタログ・ポスター・カレンダー 等

TEL.078-579-8089

✉mizuno@mizuno-ad.com